

学位審査結果報告書

学位申請者氏名 磯部 彩香

学位論文題目 Relationship Between Resilience and Self-Rated Health in Dental Hygiene Students and Registered Dental Hygienists.

(歯科衛生学生と現役歯科衛生士のレジリエンスと主観的健康観の関係について)

審査委員 (主査) 中道 敦子



(副査) 引地 尚子



(副査) 船原 まどか



学位審査結果の要旨

本研究の目的は、獲得的レジリエンスおよび生得的レジリエンスの2つの側面が、現役歯科衛生士および歯科衛生学生の主観的健康観に関連しているかどうかを調査することである。

方法は、主観的健康観に関する質問票と、レジリエンスを評価する Bidimensional Resilience Scale (BRS)、日常のストレス反応を評価するための Stress Response Scale-18 (SRS-18)、首尾一貫性を評価するための Sense of Coherence-13 (SOC-13) の3つの尺度によりアンケート調査を行った。BRSは「生得的レジリエンス」と「獲得的レジリエンス」の2尺度で構成されており、得点が高いほどレジリエンスが高いすなわちストレス回復力が高いと評価した。SRS-18は、「抑うつ・不安」「不機嫌」「無気力」の3尺度で構成され、得点が高いほどストレスが大きいと評価した。SOC-13は「把握可能感」「処理可能感」「有意味感」の3尺度で構成され、得点が高いほど首尾一貫性が高い、ストレスを受けにくいと評価した。調査期間は2017年5月から7月で、対象は福岡県内の歯科衛生士養成校1~4年次学生368人と現役歯科衛生士85人であった。主観的健康観質問票は「とても健康だと思う」から「健康でないと思う」まで5つの選択肢があり、統計解析では「とても健康だと思う」と「その他」2群で分析した。

結果は、Mann-Whitney U検定では、主観的健康観が「とても健康だと思う」群が、BRSの得点が高く、SRS-18およびSOC-13の得点が低かった ($p < 0.01$)。Pearsonの順位相関係数は、主観的健康観とBRS ($r = 0.308, p < 0.01$) およびSOC-13 ($r = 0.224, p < 0.01$) に正の相関、SRS-18とは負の相関があった ($r = -0.275, p < 0.01$)。臨床経験年数は主観的健康値と負の相関があった ($r = -0.175, p < 0.01$)。二項ロジスティック回帰分析の結果、主観的健康観に対する先天的レジリエンスのオッズ比は1.14倍であった ($p < 0.01$)。獲得的レジリエンスは有意差のある項目はなかった。一方で、SRS-18の「抑うつ・不安」のオッズ比は0.84倍であった ($p < 0.01$)。

現役歯科衛生士や歯科衛生学生の主観的健康観を維持するためには、「生得的レジリエンス」ならびに「抑うつ・不安」のストレス反応を評価し、自己分析すると共に教育においてはストレスを受ける状況の改善に注力することが有用であると考えた。

公開審査において、申請者の磯部氏に対し本研究への主体的関与や社会への学術的波及効果及び普遍性、クリティカルシンキング能力等に関する質問を行い、その回答を基に主査・副査の3名で協議の結果、博士学位論文としての要件を満たすものと判断した。